

古今東西 くんぐん 行きます!



郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします



▲仙台城本丸跡から望む街並み

「都」。その歩みは約400年前、伊達政宗公の時代にさかのぼります。政宗公は、家臣たちに食料になる柿や栗などの果樹や建築用材となる杉などの植樹を奨励。代々、丁寧に入手れされ、屋敷林として受け継がれてきました。屋敷林や寺社の林、周辺の

仙台のはじまりの地とも言える青葉山エリア。今回は、特別編として「杜の都・仙台」の歩みと、青葉山エリアのこれからの動きをお伝えします。

人々が丁寧に守り育てた緑

仙台の新緑がまぶしく輝く5月を迎えます。定禅寺通のケヤキ並木をはじめ、市内の木々に若葉が芽生えて日に鮮やかさを増していく、私も大好きな季節です。美しい緑の景色と都心の街並みが調和する都市環境は、まさに仙台ならではの言えますね。

仙台の代名詞である「杜の都」。

青葉山などの山並みが一体となって、城下町全体に緑の景観が広がっていたと言われています。明治時代の鉄道開通に伴い、東北の玄関口として観光の拠点となった仙台には、多くの人が訪れるようになりまし。当時の観光案内書には、緑に包まれた市街地の姿が「森の都」と記され、今と同じように、観光客が仙台城跡からの美しい街並みの眺望を楽しんでいたそうです。しかし、昭和20年の仙台空襲で屋敷林などは焼失。その後、「杜の都」の再生を目指し、青葉通や定禅寺通への植樹が行われ、現在に通じる景観が形づくられました。市民の皆さまと協働で緑を育む活動は、今も続けられています。「杜の都」は困難に遭いながらも、人々が協力し、大切に育て守り続けてきた財産だと感じます。

青葉山の魅力を磨き上げる

豊かな自然を有し、歴史・文化などの資源が集積する青葉山エリアは、市民の心のよりどころ。私はこの大切な場所をさらに磨き上げていきたいと考えています。本年度中に「(仮称)青葉山エリア文化観光交流ビジョン」を策



▲文久二年仙台城下絵図 (仙台市博物館蔵)
城下町に緑が広がる様子がうかがえます

定し、青葉山エリアの魅力や可能性を高めるとともに、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合整備に向けて動き出しています。また、東北大学青葉山新キャンパスでは、次世代放射光施設の整備も進んでいます。さまざまな人が集まり、新たなモノや価値が生み出される、そんな活力あふれるエリアとしても期待しているところです。そして、来年4月には青葉山公園などを会場に、国内最大級の花と緑のイベント「全国都市緑化仙台フェア」を開催します。これまで市民協働でつくった「杜の都」をさらに発展させ、未来へつなぐ契機にしていきたいと思。メイン会場の大花壇には、美しい花のグラデーションを市民の皆さまと一緒に作り上げたいと準備を進めています。今後、詳しくお知らせしていきますので楽しみにしてくださいね。

3月16日の地震で仙台城跡の石垣が被害を受け、市道が通行止めになるなど皆さまにはご迷惑をお掛けし、大変申し訳なく思っています。貴重な文化財の修復をしっかり行うとともに、青葉山エリアの未来を描く取り組みを着実に進めてまいります。どうぞよろしくお願。いします!



▲フェアでは皆さんと植樹・育樹を進めてきた東部エリアも会場になります (写真は令和元年11月)

